

北海道

本別町

ゼロから始める本別町
官民協働ローカル
SDGs人口 6,046 人 面積 391.91 km²

都市の特徴

北海道十勝平野の東北部に位置する。基幹産業は農業で、特に豆類の生産が盛んであり、本別町発祥の黒豆「中生光黒大豆」は「クレイマメ」としてブランド化されている。

本別町

HONBETSU TOWN

課題・背景

官だけでは対処できない地域課題の解決のために重要なローカルSDGsの考え方が、町民・地域事業者にも周知できていない。また、地域課題に関する当事者意識が少ない。

施策の方向

町内の各種イベントで啓発活動を行うことで、住民・地域事業者にも広く周知していく。また、地域事業者と連携しながら、地域課題解決型事業の登録制度を構築することで、官民協働による推進機運を醸成し、民間活力を利用しながら地域課題の解決を図っていく。

01 各種イベントでの啓発活動

不特定多数の町民が多く集まるイベントの場を活用し、ワークショップ活動やパネル展示、啓発グッズの配付などを通じて、理解浸透を図る。
町内で頻繁に開催されるイベントにおいて直接啓発活動を行うことで、住民や地域事業者の理解を深化させる。

イベントを通して
住民へ理解促進

02 地域課題解決型事業の創出

官民連携による地域課題解決型ビジネスの具体化に向けて、地域事業者・団体の意見・提案を取りまとめる。地域事業者と提案制度や地域課題に関する意見交換をしながら、取組の登録制度を構築することで、官民協働による推進機運を醸成する。

みんなで意見交換



Interview

インタビュー

本別町未来創造課
未来創造担当
山岡 裕幸 さん

高澤さんには、地域課題の整理と解決に向けた助言をしていただくほか、域内外の企業・団体等をつないでもらうことを期待しています。域内外の連携により新事業を創出し、関係人口を増加させて持続可能なまちづくりを進めたいです。

株式会社アール・エ北陸
代表取締役
高澤 康之 さん

多様な自治体で官民連携による地域課題解決の体制構築を支援しています。その経験を活かし、地域アライアンスの形成やステークホルダーの役割、事業の進め方に関する知見を提供し、地域内外の連携と新事業の創出を図ります。



(左)本別町未来創造課 未来創造担当
山岡 裕幸 さん

(右)株式会社アール・エ北陸 代表取締役
高澤 康之 さん

今後の展望

2024年度にSDGs未来都市として選定された際に、主体事業として挙げた事業(本別町ブランド認証制度・中心市街地のリブランディングなど)を確実に進めるため、まずは住民や事業者への制度と事業計画の浸透を図る。また、一般社団法人が事業推進の実行部隊として、地域ブランド認証制度を推進し、合わせてサテライトオフィスを運用し、地域循環共生圏の確立に向けて着実に歩を進める。

節分イベント
「ほんべつ豆まかナイト」

